

素案に関するパブリックコメントについて

1 意見募集の期間

令和3年12月10日（金）～令和4年1月14日（金）

2 意見の提出状況

（1）意見書等の数 14通

（2）具体的な意見（質問を含む）の数 85件（※最終的な件数は精査中）

3 主な意見

（1）デジタル化の推進について

○秋田県という首都圏からなかなか訪れにくい場所だからこそ、遠隔からスマートフォン、パソコン、ゴーグルを通じて現地を訪れたかのような体験をさせることなど、VR/ARなどの技術は様々な分野に応用をすることができるかと思う。距離の不自由さの解消、VRで建物を記録することで後世への記録・災害時における補修への対策・360度動画で技能継承など、ぜひ秋田県でもVR、AR、MR/XRなどの仮想現実関連の先端技術の項目追加はいかがか。

（2）企業誘致・起業支援について

○企業誘致にも更に力を入れ、多くの企業を秋田に誘致するとともに、起業をしてもらえるような構造にし、継続的な雇用を創出しなくては未来が明るいとは言えない。

（3）新エネルギー関連産業の振興について

○洋上風力発電や水力発電を推している本県において、新進気鋭ベンチャーが取り組んでいるグリーンエネルギープロジェクト「しろくまパワー」と連携してはどうか。その中で、同分野に興味のある人が集まってくれる可能性があるほか、成長していけば「グリーンエネルギー」分野は米や秋田犬に続く秋田の新しいブランド力になる可能性があり、日本だけではなく世界規模でアピールできる。そして「育成」と「雇用」どちらも取り組めば、「秋田でもやっていけるかもしれない」と若い世代が残ってくれたり、県外から来てくれるかもしれない。

（4）伝統工芸品等産業の振興について

○伝統的工芸品は祭りや観光とともに振興していただきたい。例えば北前

船や林業、鉱業、農業などのように、秋田県の工芸品をはじめとした伝統的、歴史的なものは今の産業にも引き継がれているものが多いと思う。最近では動画配信サービスで、そういった本県の伝統や歴史と一緒に観光や産業を紹介してくれているものもあり、魅力がより伝わると思う。

(5) 民間等が行う創意工夫した取組に対する応援について

○秋田内陸縦貫鉄道では有名な動画配信者とコラボした取組のほか、小坂町では廃線を活用した施設をつくるなどの取組もある。また、由利本荘市の木のおもちゃ美術館はわざわざ空港から乗り継いで遊びに来る人もいるなど、面白いところへ行くのに利便性はそこまで重要な要素ではないのかもしれない。ぜひ、そういった素晴らしい創意工夫を応援する取組をお願いしたい。

(6) 若者の移住促進について

○広大な秋田の土地は資産であるが、やはり交通面などのデメリットがあるため、秋田市を中心に移住を更に促進するとともに、現在首都圏等で子育てをしている方やこれから子どもをもつことを望んでいる若い夫婦に移住してもらえよう、様々なサービスを拡充すべきである。

(7) 社会教育機関のオンライン対応の推進について

○秋田県立博物館、秋田県埋蔵文化財センターをはじめとした社会教育機関のオンライン対応がほとんど進んでいないため、注力して推進すべき。例えば秋田県立博物館は各種講座やイベントを開いており、その内容は多岐にわたり充実しているものの、オンライン化が全く進んでいない。手足を使うワークショップ形式のものはオンライン化は難しいため仕方がないとしても、講話形式のイベントはオンライン化ができ、Youtube等の既存システムを利用すれば低コストで実現可能である。多くの出席者が見込めそうなものに的を絞る等の工夫もできる。

(8) プラン全体に関することについて

○最重要課題である人口減少問題をはじめ、県に力を入れてほしいことに挙げられている諸課題の克服に向けて取り組むのなら、支援、育成、促進等のあいまいな表現ではなく、より具体例を示し、どこまで支援、育成、促進するのか明確にしてほしい。